

## 新たに教職員になったみなさんへ

# 子どもの「声」を見つけ、発信を

## —いつでも応援しています

弁護士 豎 十萌子

女性問題や子どもの貧困などに取り組んでいる弁護士 豎十萌子です。先生方には大変期待しています。

学校生活が幸せかどうかは先生次第で決まる、家庭が子どものSOSに気づかなければ気づけるのは先生だけ、といっても過言ではありません。子どもの貧困や問題は埋もれています。子どもは声を上げることが出来ません。その声を見つけ、声として発信できるのは、先生しかいないのです。沢山の問題を抱えている子どもも達がいます。たいていは、子どものせいではありません。是非、物事を奥まで見て下さい。子

どもの問題に正面から向き合ってください。子どもの段階で救えるかどうかで、その先のその子の人生は大きく変わります。そして、社会にとっても、大きく影響を与えます。

まずは、頑張る先生を応援したい、先生同士で連携を取って欲しいのです。上の先生を始め、全ての先生に、頑張る先生が頑張れる環境を築いて欲しいです。

そして、先生方だけでは到底解決が出来ない問題が山ほどあるでしょう。そんなときは先生だけで抱え込まずに、すぐに、社会にある沢山の支援を探し、支援につなげ

て下さい。社会資源は結構あります。多くの社会資源で、連携して問題を解決していきましよう。子どもの問題については、問題解決の中心に先生がいると思っっています。先生が子どもを救う、と一点のために、社会をどんどん巻き込んでください。私達は先生からのSOSを待っています。協力しあいたいと思っっています。

社会に支援がない場合には、子どもの視点に立って、解決策がないことがおかしい！と社会に提言して下さい。先生の発信に私達は気付かされ、一緒に、もしくは代わりに社会提起します。

先生を取り巻く環境もどんどん厳しくなっっています。でも、それを享受するべきではありません。子どものために、おかしいと思っった先生方の環境にも、どんどん異議を発信し、私達を巻き込んで社会を変えて欲しいのです。

子どもの貧困・問題は、この日本が将来、体力・希望ある正常な国であるかどうかを決める重要な問題です。よって、先生方は、この日本にとって、大きな役割を担っっています。自信と誇りを持つて、進まれて下さい。いつでも応援しています。

# 頑張りすぎない しなやかさで

大東文化大学准教授 渡辺 恵津子

「外の力で振り回される洗濯機に入れられているよう」といわれる新任教員。自分で回すことができるようになるために、三つのおすすめを紹介します。

一つは、1学期の実践をまとめてみることです。日々の生活や授業の中の出来事等から、子どもがキラリと光った事実の場面を切り取り、それらをつなげて記録として綴ってみるのです。気になる子どもの事、うまくできなかった指導や授業、納得いかない管理職の「指導」？ 等々。心に残っている事をまず整理してみます。子どもたちのメモや学級通信、保護者とのやり取りなどがあれば、それらを手掛かりに働きかけや取り組み、その中で感じたこと考えた事、子ども同士の関係、親や地域のことなどを書き綴るのです。書いてみることで、

様々な問題が焦点化され、子どもを見る目が深くなるはずです。授業も、自分の意図や子どもたちの具体的な発言、その時の子どもたちの姿を書き綴ってみると、「この授業」ではない子どもも理解に立った授業づくりが見えてくるでしょう。まして、納得できない「指導」？ があればしつかり記録することです。書き綴ることは、教育実践者として育つ一歩です。

二つ目はそうしてまとめたものを外に発信することです。地域のサークルや学習会などに参加して、拙いレポートを検討してもらおうのです。自分では見えなかったものが見えてくるのがたくさんあるからです。発信できなくても、全国各地で開かれる研究会などに参加してみることはおすすめです。臨時採用も含めたたくさんの方の新任

の教師たちが、夏の研究集会に参加して全国の先生たちから子どもの方や実践を学び、2学期の展望を開いてきています。こうしてできた繋がりは、教師として育つ上で大きな財産になります。

最後に、ストレスの多いこの仕事、「学校」に縛られ振り回されないで過ごす時間をつくるのが大切です。「学校」外の世界を体験し、実感のある様々な繋がりをつくりましょう。夏休みはいい機会です。

この4か月、管理職や先輩の「指導」？で悩むこともあったでしょう。そんな時、近くの組合員の先生に相談して解決した卒業生は、「近くに組合員の先生がいてよかったです。新任は未熟だからこそ、支えられる権利があると思う」と語っていました。未熟だからこそある権利は、「一人で悩まない、頑張りすぎない」ことです。

子どもたちは教師の笑顔が大好き。「子どもの前に笑顔で立つ」ためには、支えられることを権利としてとらえることから始まります。大きく深呼吸して、支え合うしなやかで豊かな関係をたくさんつくっていきましょ。

# 教師は

## 子どもと共に育つ伴走者

富士見市立ふじみ野小学校 中村 潤

「こんなクラスにしたい」「こんな授業をしたい」と思う一方で、宿題やテストの丸つけ、初任研の指導案づくりなど事務仕事に追われて、学級づくりや教材研究といった時間が取れない。自分は一生懸命やっているのに、子どもたちが落ち着かず、トラブルが起きてしまう。「初任者だから」と良くも悪くも指導される日々。理想と現実の違いに戸惑い、試行錯誤の日々を何とか乗り切っていると感じる新任の先生が少なくないのではないのでしょうか。私は失敗だらけの一年目でした。教師二年目を迎え、振り返ってみると、苦悩の中から学んだことが多くあったように感じます。

第一に、つながり、語ることでできる仲間の存在です。希望に胸を膨らませて、教師になった大学時代の友人がいました。教

師一年目の一学期、彼は体調を崩してしまいました。先輩教員や恩師、仲間に分身のクラスの大変さを打ち明けました。すると、体調も次第によくなくなっていきました。彼は、自らを語り、周囲からヒントを得たことで、本来の自分の明るい性格を忘れてかけていたことに気がついたのです。

確かに、子どもの安全に関わることなど慎重にならねばいけない場面もあります。が、もっと楽に気構えてもよい気がします。子どもを含めて、人間は失敗して気づき学ぶことが多くあるはず。職場や研修の場で、「初任者は条件付き採用だから」「初任者だけでも一人前の教師」と言われ、それがプレッシャーになるのは当然のことです。そこでポイントなのが失敗や辛さを語る人間関係づくりです。一步を踏み出

して、仲間とつながると、明日へとつながる希望の種が見つかるはずです。

第二に、子どもの前に「笑顔」で立つことの大切さに気づいたことです。

「先生、何か固いね。笑顔でいると、私はそれだけで楽しいよ。」

子どもの言葉は私の胸に刺さりました。叱られたり、失敗を責められたりするために学校へ来ているのではない。子どもたちは、笑顔を求めて学校へ来ているのだと私は気づかされました。それから笑顔でいることを心がけると、子どもの本音や新たな側面に出会えるようになったのです。

子どもたちは様々な生活や現実をランドセルに詰めて、学校にやって来ます。中には、ストレスや悲しみを背負っている子どももいるでしょう。子どもたちとの楽しみ、悲しみ、辛さへの共感から成長できるのが教師です。さあ、今日は子どものどんな姿に出会えるでしょう。教師は「子どもと共に育つ伴走者」という恩師の言葉を胸に刻んで、私は教室へと向かいます。

# 等身大の自分で 生徒に向き合う

新座総合技術高校 新井 裕之

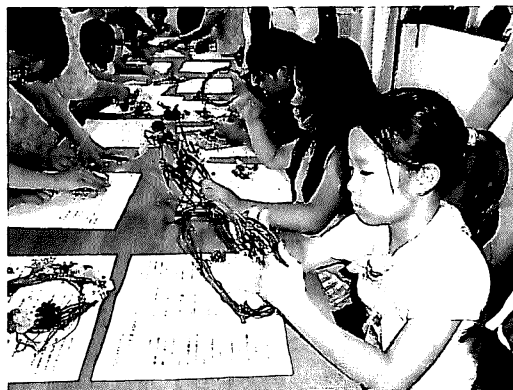
私は現在、正規採用の教員として教壇に立ってから3年目を迎えました。今回「初任者の先生方に向けて」ということで原稿依頼を頂きました。ただ、私よりも教職経験の長い方や社会人経験のある方などさまざまな方がいらっしゃると思います。そのような中で、経験の少ない私が何かお伝えできるようなことはあまりないように思えます。そこで、「初任者の先生方に向けて」のメッセージというよりも、この3年間で感じたことを述べてみようと思います。

私は、正規採用になる以前は臨時的任用で3年間、非常勤講師として2カ月教職に就いていました。そのときと現在の違いはさまざまありますが、なんと言っても、やはり一番大きい違いは「担任」を持ったことです。臨任のときはいつも「自分だったらこういうクラスにしたいな」と思いなが

ら、教壇に立っていました。しかし、いざ担任を持つてみると、予想よりもはるかに大変で責任のある仕事だと思いました。

クラス経営がなかなかなかうまくいかず、毎日のように悩んでいました（現在進行形ですが）。その中でわかったことが一つあります。それは、「生徒は担任の意志や理想とは関係なく日々成長している」ということです。当たり前のようにですが、担任を持つてみて改めて実感できました。なんだかそのことが私にはとても嬉しく、また救いでもありました。これまで「クラスのありべき姿」や「理想のクラス」というものを思い描いていた私にとって現実の生徒にしっかりと向き合うきっかけでした。それから、等身大の自分で生徒に向き合えるようになった気がします。

まだまだ悩み多き毎日が続いています



本文とはかんけいありません

（多分、一生続くんでしょね）が、生徒と過ごす毎日、特に担任を持ちながら過ごす日々は本当に楽しく刺激的です。「生徒たちと過ごす一日一日を大事に！」ありふれた感想ですが、今はただそれだけを考えると生徒と過ごしています。

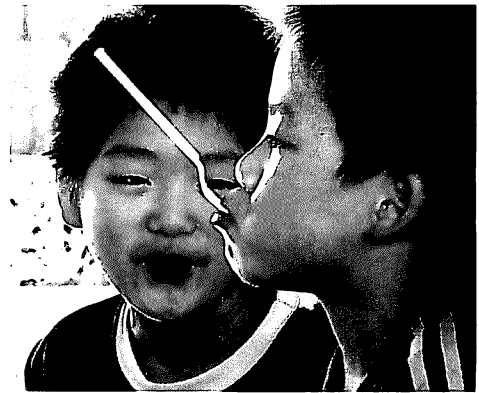
# 柔軟な心と広い視野で ともに成長を

所沢特別支援学校 近藤 太郎

教員になって10年以上たちました（臨探期間も含む）。しかし、教育実践では、時間をかけて準備し自信を持って臨んだ授業が通用しないことがあります。人間関係では、どんなに情熱を傾けてもなぜか誤解されたり、分かり合えなかつたりすることもあります。なかなか思い通りにはならず、悩みは尽きません。「これで良かったのか」「もっと別の方法があったのではないかと考える日々が続きます。

最近では、20代前半の若い先生とチームを組むことが多くなってきました。昨年度は大学を卒業して2年目の臨探の先生と2人でクラスを担任しました（今年度も一緒です）。その先生から「こういう時はどうしたら良いですか？」とアドバイスを求められることが多くあります。しかし、私自身

の実力や経験が未熟なことは重々承知しています。質問を受けても「こうした方が良いよ」と自信を持って答えることはなかなかできません。そこで、「一緒に考えてみよう」と話し合い、「とにかく実行してみよう」とともに実践を積み重ねてきました。その先生の柔軟な心と広い視野により、子どもに大きな影響を与え、成功することが多くあります。特にすごいと思うのは、その先生の言葉には心がこもっていることです。保護者を「大変ですね」と労う時、子どもを「君ならできる」と励ます時、心からの言葉は相手に響きます。小手先の知識やテクニックを超えるものを感じます。私は大学卒業時、教員免許を持っていませんでした。社会に出てから、もう一度大学に行き学び直し取得しました。夢をかなえよ



本文とはかんけいありません

うと一生懸命だった当時の気持ちを思い出させてくれます。

きつとフレッシュな皆さんは、職場で多くの先輩先生にプラスの影響を与え、児童生徒にとつてかけがえのない存在になっているはずですよ。心と身体の健康に充分気を付けて、職場に温かく、爽やかな風を吹かせてください。

# まずは相談できる人を

## —事務職員のみなさんへ

横瀬町立横瀬中学校 岩岡 隼人

1学期が終わり給与事務や旅費事務といった、毎月行う処理には慣れてきた頃でしょうか。

私たちの仕事は年に1回のももあり、先の仕事が見通せず、最初の1年間は特に大変だと思います。休めるときは無理せず休みましょう。幸運なことに私たちの職場は子どもたちの長期休業という、有給休暇を取り易い環境があるのですから。

学校事務職員は基本的には1校1名配置ですね。仕事の相談ができる人は見つかりましたか？ 同期の事務、近くの学校の先輩、事務所の給与担当、管理職だけでも構いませんが、プライベートなことを含め、悩みを聞いてくれる人がいたらうれいものです。ただし、本当に困ったら（パワハラやセクハラ、残業代の未払いなど）労働組合や県の労働相談センターに連絡し

ましょう。時には管理職や教育委員会が間違っていることもあり（そういうことはないことが望ましいのですけれどね）、個人で悩むよりも、法的に解決してしまったほうがよいこともあります。もしだれにも話せず、困っていたら相談してください。

働いていくうちに、労働の根本を忘れる人がいますが、雇用主との間に雇用関係を結び労働の対価を得て、生活できることが基本ではないでしょうか。先生方は昔からの夢で、お金を得ることではなく、子どもたちと向き合っていくことに喜びを得る方が多いですが、我々学校事務職員は最初から志があつてなる人はなかなかいないですよ。もちろん学校という場所で働くようになって、子どものために、地域のために、先生方のためにはと思って働くことは悪いことではないです。でも先生の中にもいます



本文とはかんけいありません

が、頑張りすぎてやめる人もいるのが今の世の中です。何を大切にしたいかは人それぞれでいいと思いますが、まず自分を大切にしてください。ひいては自分を育ててくれた人や、周りの人を大切にすることにつながるのですから。

学校の中でも少数の事務を選んだ皆さんと、埼玉県の教育をよりよいものにしていきたいです。お互いに頑張りましょう。